

◀ 下回りは？ オイル漏れがあったが全体的に良好



購入の際に下回りまで見ることはできないが、走行11万kmオーバーの現状を知るためにリフトアップ。児玉メカニックが各部を徹底的にチェックしていく。



デフからオイル漏れは定番のポイント。漏れがひどいようであればすぐにメンテが必要だが、現状では様子を見るということに。



見た目では問題なさそうだったロアアームブッシュに小さな亀裂を発見したが、まだ使用できるという判断だった。



壊れると高くつく触媒だが、W210の場合はそれほどトラブルは多くないという。もし壊れても対処する方法はある。



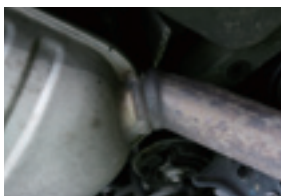
スタビライザーに備わるブッシュ。劣化が進むと開いてきてしまうのがお約束だ。現状ではまだ使えるとのこと。



オイルパンからの漏れはなく、定期的にパッキンを交換しているという判断。とこのことはオイル交換もされているはず。



足回りで劣化しやすいのがボールジョイント。ブーツに亀裂が入るのが定番だが、取付車のそれは問題なし。



排気管に多少のサビが発生してしまふのは避けられない。排気漏れしているような箇所は見当たらなかった。



ショックアブソーバーからのオイル漏れはなく、テスト走行した印象でも問題ないとのこと。

◀ その他の箇所は？ 気になるのはタイヤの劣化くらい



劣化を放置しておくとうつやがなくなりヘッドライトレンズ。取付車はクリアな状態を保っていたことから、定期的にメンテナンスされているのが分かる。



タイヤは減ってスリップサインが出ている。ここは交換が必要となる。多走行車にはよく見られるケースである。



インテリアのコンディションは良好でオーナーが大切に扱っていたのがよく分かる。エアコンなどの装備類も正常に作動。

走行10万キロは単なる通過点でしかない
ドイツ車なら少しの手入れで長く乗り続けられる

ジョイントもチェックしてみたが問題はなく、ショックアブソーバーからのオイル漏れもない。壊れると高くつく触媒についても異常などはなく、排気管からの漏れなどもなかった。点検を終えた児玉メカニックに取

材車の印象を聞いてみた。「部品を交換した形跡があちこちにみられるので、定期的にメンテナンスしてきたクルマだと思えます。今すぐに必要なメンテナンスはタイヤ交換くらいでしょうか。年式と距離を考えたら本当に良いコンディション。オーナーがしっかりとメンテナンスしてきたかどうかは、走行10万kmオーバーになると顕著に現れますからね。実際にこつこつと中古車が売られていたら、多走行でも狙い目だと思いますよ。」

メルセデス・ベンツの
電子制御式5速AT
シフトモードスイッチのトラブル

電子制御式5速ATには「W」と「S」のシフトモードスイッチが備わっている。「W」にすると2速発進になり、「S」では1速発進となるのだが、これが壊れてどちらかに固定されてしまうトラブルが多い。その原因として多いのが、お菓子などの食べカスや飲み物をこぼしてしまっただけでスイッチに付着してしまうこと。状況にもよるが、スイッチ部分をキレイに清掃してやることで復活することも多いという。



シフトゲージに備わるスイッチ。これまで使ったことがない人も多いのでは？

室内は非常にキレイな状態を保っていて、シートも大切に扱われているし、ウッドパネルに割れなども見られない。内装のコンディションが

セデスに限らず、すべてのドイツ車に通じること。頑丈なボディ、整備性を考慮した作り、安定した部品供給があるからこそ長く乗り続けることができるのだ。中古車のコンディションを走行距離で判断してはいけないことを、改めて思い知らされた。

取材協力 — セントラルオート



クラシック世代から高年式モデルまで、数多くのメルセデス・ベンツを修理している専門工場がセントラルオート。パーツの交換時期など、経験に基づいた診断で正しい整備をしてくれる。重整備も得意分野。

●住所：埼玉県八潮市八条 1179
●TEL：048-930-6800
●URL：http://www.central-auto.net/



多走行のメルセデス・ベンツを徹底チェック！ 118392

各部のコンディションは
どうなってる？

多走行車のコンディションとはいったいどんな状況なのか。購入時には確認できない下回りを中心に徹底的にチェックしてみると、「走行距離＝コンディション」ではないことが判明したのだ。メカニックの見解も紹介しながら、その模様をレポートしよう。

●文＝GERMAN CARS ●撮影＝G.C.E ●協力＝セントラルオート

走行11万kmオーバーの2代目Eクラス

メルセデス・ベンツ E320 96年式

W210タイプの2代目Eクラス。中古車は多数流通していて、その中には多走行車も多い。取付車は直6エンジンを積んだ前期型だが、ATは電子制御式の5速タイプを搭載。走行距離は11.8万kmである。



走行距離だけでは
本当の状態は分からない

多走行車なんて買えない……と思っている人は少なからずいることだろう。だがそれは、走行距離を基準にしているからであって、実際のコンディションとはイコールではないのだ。その検証をするべく用意したのが、96年式のメルセデス・ベンツE320。本誌でお馴染みのセントラルオートの児玉メカニックに徹底的に点検してもらい、各部のコンディションをチェックしていききたい。

まずは外装回りをぐるっと見てみると、劣化して黄ばんでしまいがちなヘッドライトレンズは良い状態を保っている。保管状態が良いか、定期的メンテナンスしている証拠でもあるだろう。タイヤは交換時期にきていて、スリップサインが出ていて、実際に販売されている中古車でもこういったケースは多いが、タイヤは消耗品として考えるべきだ。

◀ エンジン回りは？ 定期的にメンテされているのが分かる状態



取付車のエンジンは直6DOHC。走行11万kmを超えていてもオイル漏れが見られなかったのは、定期的にメンテナンスされてきた証とも言えるだろう。部品を交換した形跡も数多くあった。



エンジン不調の原因になりやすいエアマスセンサー。見た目だけでは劣化をチェックできないが、CP診断を受けることで状態を確認できる。



電気的にスロットルを開閉するためのセンサー。アクセルを踏むとリンケージが作動する。

ウォーターポンプやサーモスタットなどの水回りパーツは交換された形跡が残っていた。